

卒業論文

各県における市町村間格差の要因分析

2009年度入学

九州大学 文学部 人文学科

人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2013年1月提出

## 要約

本論文の目的は、経済的な地域間の格差についての分析を、市町村単位のデータを用いて行なうことである。経済的な指標として全国の各市町村の一人当たりの市町村民所得を用いている。

これまで、都道府県単位やさらに大きなブロック単位での地域間格差に関する研究は盛んに行なわれてきた。しかし、都道府県内の市町村に目を向けたものは少ない。また、その地域間格差に対する要因の量的な分析を行なったものも少ない。そのため、本論文では各府県内の市町村の一人当たりの市町村民所得のデータを収集し、量的な分析を行なっている。各県内の市町村民所得が最大の市町村と最小の市町村との差を格差の値としてみる方法、各県内の市町村の市町村民所得の標準偏差をみる方法の二つを従属変数とした量的な分析を行ない、また、県民所得を従属変数とした分析も行なっている。その際に、地域間格差に関連すると思われる五つの指標を独立変数とした。五つの独立変数は、「完全失業率」、「高齢化率」、「人口密度」、「第3次産業就業者比率」、「社会増加率」である。これらを用いて、線形重回帰分析（強制投入法）による分析を行なっている。

第1章では、問題設定として一人当たりの県民所得の都道府県のランキングについて触れている。そこから福岡県の状況について述べ、県を一つの値と見るのではなく、県内の市町村の値を分析することが必要であることを述べた。また、その分析は福岡県内だけを見るだけでは不十分であり、全国へと広げて分析を行なうことを考えた。そのため、市町村単位での分析を都道府県ごとに比較できるような分析を試みることを本論文の主題とした。

第2章では、経済的な地域間格差を扱ったものや本論文と同様の分析を行なった先行研究を紹介している。また、先行研究を受けて、本論文の立場を明らかにしている。

第3章では、各都道府県内の市町村の一人当たりの市町村民所得のデータについて記載している。データは主に、インターネット上に公表されている統計資料から集めている。データは一人当たりの市町村民所得の最大の市町村と最小の市町村の差を求める方法と、一人当たりの市町村民所得の標準偏差を求めるという方法をとっている。その後、二つの方法で求めたデータの比較を行なった。

第4章では、まず、従属変数と独立変数の紹介を行なった。分析では三つの従属変数と五つの独立変数を用いた。線形重回帰分析（強制投入法）で、三つの従属変数に対する五

つの独立変数の影響を見ている。一つ目の分析では、県民所得に対する独立変数の影響を、二つ目の分析では、一人当たりの市町村民所得の標準偏差に対する独立変数の影響を、三つ目の分析では、一人当たりの市町村民所得が最大の市町村と最小の市町村の差に対する独立変数の影響を分析している。五つの独立変数がそれぞれに三つの従属変数に影響を与えていることが確認できた。また、独立変数に対する分析も行なっている。

重回帰分析の結果より、以下の五つの結果が得られた。

「完全失業率が高い府県ほど一人当たりの市町村民所得の格差が大きい」

「高齢化率が高い府県ほど一人当たりの市町村民所得の格差が小さい」

「人口密度が高い府県ほど一人当たりの市町村民所得の格差が大きい」

「第3次産業就業者比率が高い府県ほど一人当たりの市町村民所得の格差が大きい」

「社会増加率が高い府県ほど一人当たりの市町村民所得の格差が小さい」

第5章では、最後に、本論文でできたことや反省点について記述している。

## 目次

はじめに	1
1 問題設定	1
1.1 一人当たりの県民所得ランキングについて	1
1.2 福岡県の状況について	3
1.3 全国へのつながり	3
2 先行研究	4
2.1 地域間格差の定義	4
2.2 先行研究のレビュー	4
3 データ	7
3.1 データの収集方法	7
3.2 最大市町村と最小市町村の差	8
3.3 一人当たり市町村民所得の標準偏差	20
3.4 比較	22
4 分析枠組	25
4.1 従属変数	25
4.1.1 市町村の一人当たりの市町村民所得の標準偏差	26
4.1.2 一人当たりの市町村民所得が最大の市町村と最小の市町村の差	27
4.1.3 各府県の県民所得	28
4.2 独立変数	29
4.2.1 完全失業率	30
4.2.2 高齢化率	31
4.2.3 人口密度	32
4.2.4 第3次産業就業者比率	33
4.2.5 社会増加率	34

4.3	分析について	35
4.4	仮説の設定	35
4.5	分析結果と考察	37
4.5.1	県民所得を従属変数とした分析	37
4.5.2	標準偏差を従属変数とした分析	38
4.5.3	最大最小差を従属変数とした分析	41
5	おわりに	46
6	参考文献	47
7	付録	54
7.1	一人当たりの市町村所得を人口から計算した表	54
7.2	一人当たりの市町村民所得を転記した表	60
7.3	福岡県の一人当たりの市町村民所得	61